

6
月
号

第305号

いっしん

平成22年(2010年)

雨は降ると言いますが
降るのではなく
降らせて頂くのであり
視神様のお恵みであり
ます

甘木親教会
初代親先生のみなさま

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市加治木町朝日町130 発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp ホームページ http://www.7a.biglobe.ne.jp/~konkokajiki

甘木親教会二代教会長 安武文雄大人 十五年祭 平成22年12月23日(祝)

加治木教会布教六十年記念大祭

平成二十三年五月二十九日(日)



ひつとべバンド隊

練習会

五月二十九日(土)鹿児島教会において、鹿児島地方教会連合会「ひつとべバンド」の練習会が開かれました。今月は三教会から八人が集い、合同で演奏練習をしました。

少年少女全国大会、連合会や教区の記念大会などで発表できるように練習を進めています。最も大切なことは信心が育つことです。

今日、私たちが生かされて生きていく命にお礼を申すことができる人に育つよう、人の助けを祈ることができるよう育つよう、努めて行きたいものです。

あたりまえのようにしてある「天地(水・空気・食物・資源)あらゆる地球環境」も、「人」(命・心)も、世界じゅうの人たちが幸せに平和に生きて行くために、恵まれ与えられてあるもので、またとない尊いものであり、いつも感謝と喜びをささげて行くべきものであるという、真の価値を分かるよう育ててをいただいで行きましよう。

連合会「ひつとべバンド」…… P1
加治木教会天地金乃神御大祭…P2

新田原教会布教45年記念大祭… P4
「神様が助かれる信心」… P4～6
まごころ運動… P7 教会行事… P8

加治木教会

天地金乃神御大祭 仕えられる

青葉萌え出する五月二日(日)加治木教会では天地金乃神御大祭が仕えられました。
ゴールデンウィークの真っ只中でありましたが、ご信者のみなさんも



前日から準備の御用におかけを蒙られ、御大祭の準備が進められました。前日には掃除・お直会の下ごしらえなど、若い方々も先輩のご信者さんと一緒に御用ができたことがたいことでした。

御大祭は親先生ご祭主のもと、麗しく仕えられ、ご教話是人吉西教会長森明先生でした。

先生は二年前に脳梗塞を患われ

ましたが、おかけを蒙られお元気に御用ができればるまでに快復されました。お話しをされるのに少し不自由はあるということでしたが、先生頂いてこられた、親教会あります江田教会の初代・二代菊川先生のみ教えや、歩んでこられた教師人生のご経験談などをお話になられ、感慨深いご内容でした。

(テープはお広前にあります)



新田原教会
 天地金乃神御大祭並びに
布教四十五年記念大祭

五月十六日(日)金光教新田原教会(福岡県行橋市)の布教四十五年記念大祭が、甘木教会長 安武道義親先生ご祭主のもとに仕えられました。

新田原教会は、甘木教会から前教会長鬼塚正道先生がご布教されて四十五年を迎えられました。

初夏の日差しと鮮やかな新緑が美しい季節に、初夏の花々に彩られた境内を爽やかな風が吹き、ご神紋の旗がなびく中、麗しく布教四十五年記念大祭が仕えられました。

新田原教会の先の教会長先生からご教導を受けられ信心のお育てをいただかれて、現在も家電販売店を営まれながら、新田原教会をはじめとして各方面で御用にご活躍され

信徒総代をおかけ頂いてあります瀬戸さん経営の「(有)真洋電気」も訪ねさせていただきました。一生懸命な仕事ぶりが伺えるお店でした。



教話

神様が助かられる信心

矢野 章(鹿児島・加治木)
 【金光教報「天地」掲載文】

私は、昭和五十八年に金光教学院を卒業して、甘木教会で八年ほど修行させていただきました。その後、平成三年に、後継者がいなかった加治木教会に、夫婦で入らせていただきました。

先代教会長である矢野政美先生とは八年間、共にご用をさせていただき、先生がご帰幽になってから、その後を継がせていただきました。

政美先生が布教に出た昭和二十六年は、まだ戦争の傷跡が残り、食べることも困るという時代でした。相当な信念がなければ布教できないなかでご利用された先生は、私とは考え方がまるで違っていました。「どうしてこんなに頑固なのだろう。ここでご用は続けられない」と、私は何度も思いました。

先生が亡くなった後、はじめて教会の出納簿を見ると、あと数年で教

会生活が極めて困難になるような状態でした。先生は「信者が減っても、自分の信念を貫く」という考え方でしたが、そのせいでお下がりが減ったのだと思いました。

甘木教会で修行していた時、「ご飯を頂いた証明はするが、修行したという証明はしない」というお話を聞きました。私は、その教えどおりに信心を頂きることができなかつたようで、出納簿の数字だけを見て、「これではいかん。教会を改革しなければ」という思いが先行して、いろいろな取り組みをしました。一時は信者さんも増えましたが、そのうち信者さん同士で悪口や陰口を言い合うようになり、お結界でのお取次よりも、「嫁の看護婦がこう申しますので」というような人間判断のほうが多く受け取られました。教会長の信心がしっかりしていれば、信者さんの信心も育つのですが、私にはその根底となる信心が育っていませんでした。

「おかげの自覚」とは



二、三割の信者さんが、教会から去っていききました。教会の経済はぎりぎりの状態なのに、お下がりはずりなくなりました。思い悩んだ末、「お取次を頂くとはどういうことか」「信心の本質とは何か」を、信者さんにしっかり伝えてこなかつたことに気づき、またそれを自分でも頂いていなかつたことを思い、「何が信心の本質か」を求めはじめました。

そういう時に、政美先生が布教三十年祭の時に書かれた『私のいたたく安武松太郎師』という本に出会いました。そこには政美先生の母親である矢野クラさんの話があり、「おかげの自覚」ということが書かれていました。

クラさんは明治三十七年、夫の病気がきつかけで、甘木教会初代である安武松太郎師にご縁を頂かれまし。その十年後、腎臓病にかかり、「これまでおかげを頂いてきたが、この病気はとうていおかげを頂けません。親神様には病床からでもお礼を申し上げることができるが、先生には教会までお参りしないとお別れを

申せない」と思い、親類に両脇を抱えられて参拝し、先生に今生の別れをしました。

すると先生が、「あんたは死ぬ覚悟でいるが、これまでの一心はおかげを頂きたいという一心で、本当の一心とは違う。生まれる力がなく、生きる力もない者が、生まれめられて、生かされて、一身一家のうえにおかげを頂きたいと信心をさせていただけで、三十三年間生かされてきた。

では、天地のお恵みを頂いてきたご恩は知っておるのか。あんたはそのまま死ねば、それで済むかもしれないが、神様は損をされただけだ。そのご恩にはまだ一つも報いていないではないか。ご恩を知り、そのご恩に報いさせてくださいという信心はせんのか。おかげをくださいという一心もあるが、ご恩に報いさせてくださいというのが、本当の「心じや」とおっしゃられました。

クラさんははじめて、「ああ、そういう一心はまだ出していなかった」と気づき、「申し訳ございません

んでした。どうぞ、神様におわびして、「ご恩に報いる信心をさせてください」と願われました。それから薄紙をはぐように、六十九日目にはお礼参りができるまで回復しました。

クラさんは、三十三歳の大病をとおして、天地の親神様のご恩、お取次くださる親先生のご恩に報いようとする信心に変わっていったのです。その話を読んで、私ははじめて「おかげの自覚」ということを知りました。

親神様を信じる信心

「神様が助かる」ということは分かりにくいのですが、「神様が助かる」の反対を考えると分かりやすくなります。「神様が助かる」の反対は、「神様が損する」ということです。おかげだけを目当てにしている信心は、神様に損ばかりさせている信心です。

安武松太郎師は、それを「神様を道具に使う」と表現しています。一身一家の幸せのために信心して、お

かげを頂けば、お礼も申さずに去っていく信者さんがたくさんいます。神様を自分の道具に使ってしまうことになります。

昨年、甘木教会布教百五年記念祭で頂いた直会本に、安武松太郎師の「おかげを信ずる信心と、親神様を信ずる信心」という教えがあり、「親神様を信ずる信心」ということについて、矢野クラさんの話が出ています。

クラさんは腎臓病でおかげを頂きますが、その後、夫が失敗を重ねて田畑を売り、農家なのに米を買わなければならなくなりました。夫が「ここを立ち退いて、山向こうの炭坑へ働きに行こう」と言つと、くらさんは「あなた一人で行ってください。私は教会から離れられませんから」と言われました。

おかげだけを信じていれば、「信心しているのに、どうして」となってしまうのですが、くらさんはおかげではなく、親神様を信じているため、これを神様からの修行と受け取られました。本当のおかげを頂く

信心が育ち、やがておかげを頂いて、村一番の農家になりました。

その時、世間の人が夫に、「君は妻君を拜め。妻君の信心によって、放蕩も直り、財産ができた」と言うのを聞いて、クラさんは「夫が放蕩してくれたおかげで、信心することができた。私のほうが夫を拜んでいます」と言つたそうです。

「親神様を信ずる信心」になつてくると、信心は折れにくくなり、大きな問題が起こつてきても、落ち着いて対処できるのです。

加治木で死になさい

政美先生が布教されて三年目を迎えたころ、信者さんのお参りがなくなりました。政美先生の前に布教された先生も、布教半ばで亡くなり、悪いうわさが広がりました。政美先生は、「ここでは布教できない」と夫婦で話し合い、甘木教会へ進退伺いに行かれました。

その時、二代親先生は、「そのよくな事情であれば、一応引き揚げてくるのもよからう。また布教に出し



ていただければよいのだから」と言われましたが、政美先生には「みんなに見送られて布教に出たからには、おめおめと帰るのは恥ずかしい」という思いがありました。それで初代親奥様にもおうかがいしましたが、同様のことを言われました。

思い余った政美先生が、母親であるクラさんに相談したところ、「あんたが商売が何かであれば、ここでは思うようにいかないから、ほかに替わるということもよからうが、お道のご用というものはそんなものではないかと思う。あんたは甘木を出る時、加治木の土にならせていただくという決心で行ったのではないか。その決心はどうしました。」

加治木で打って鳴らぬ太鼓は、どこで打っても鳴りません。それを鳴らそうと思えば、太鼓のバチが折れるまで、皮が破けるまで打たせていただければ、必ず鳴ります。あんたが一生かかって道が開けんでもよいではないね。あんたが死んだ後、跡を継いでくださる人が継ぎやすいようにしておけば、それでよいではない

ね」と、涙ながらに励ましたのです。その言葉で、政美先生の気持ちが生かれました。

母親が子どもに「加治木で死になさい」と言えるのは、「本気でご用させていただけば、親神様は必ず答えてくださる。おかげを信ずるのではなく、親神様をしつかり頂いていけば、必ず太鼓は鳴る」という信念があつたからだと思えます。クラさんは信者でありながら、教会が立ち行くかどうかの決意をさせました。「神が助かる信心」「本当のおかけを自覚する」というのは、信者さんでもできるのです。

○

私は、「神様が助かる」ことよりも、目先のおかけ、信者さんの数や経済ばかりに目を向けていました。しかし、政美先生のご本に出会い、神様に損をさせない信心、今日まで天地のお恵みを頂いてきたご恩に報いる信心、祈ってくださる親先生のご恩に報いる信心に、心が向いていききました。この時に、「おかけの自覚」「神様が助かる信心」というこ

とを、教団が掲げてくださったことは、とてもありがたいことです。

「おかけの自覚」ということを、これからどう現していくかが問題ですが、しっかりと神様に向かいながら、そのことを求めていきたいと願っています。それが加治木教会のみたま様方がお喜びになることでもあると思っています。

(本部における寒中一斉信行期間朝の教話から)

あしあと

加治木教会行事記録

5月

- 1(土) 報徳月例祭 10時半
御用奉仕
- 2(日) 加治木教会御大祭 11時
- 3(月) 甘木親教会参拝日(参拝できる)
(参拝不可)
- 5(祝) 西鹿兒島教会御大祭 12時
- 8(土) 斎掃御用 10時 庄村家豊祭
- 9(日) 大口教会御大祭 12時
- 10(月) 上荒田教会御大祭 11時
生海光 大神様
- 10(月) 月例祭 10時半
加治木教会にて
- 13(木) (連)布教協議会 加治木教会にて
- 16(日) 鹿兒島教会御大祭 11時
- 16(日) 新田原教会45年記念祭
- 21(金) 斎掃御用 10時
- 22(土) 月例祭 共励会 13時半
- 29(土) ひつとへバンド練習会 14時
- 31(月) 斎掃御用 10時



努力目標

育てよう みんなの心に おもいやり

少年少女全国大会に向け7月末まで

まごころ運動

に取り組みましょう。

平和の折りづる

※古切手・古カード

えんぴつ(新)

を集めます。



▼換金後、海外の恵まれない子どもたちへ送られます。

使用済み切手収集についての

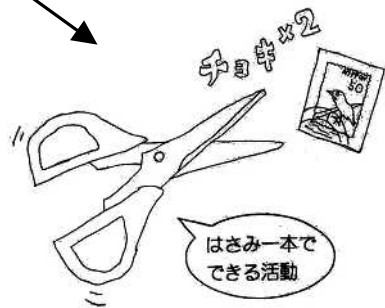
「お願い」

*切手ははがさないで、以下の要領で切り取ってください。

*切手の周囲を5mm程度あけて切り取ってください。

*枚数を明記してお届けください。

*外国切手や台紙からはがした切手がある場合は別にしてお届けください。



使用済み切手の収集は少年少女全国大会「まごころ運動」の取り組みのひとつです。

八月四日(水)〜七(土)

出発三日

少年少女会連合本部

年代別キャンプ

場所…御本部集合

対象…中・高中生

※制服・準備品等必要、詳しくは、教会まで。



↑
少年少女会
少年少女会
用
お知らせ

ご霊神様のおまじない

六月

- 平地正巳之霊神 (↑日)昭和20年
- 前田 豊之霊神 (6日)昭和20年
- 星原雅志之霊神 (11日)昭和56年
- 最勝寺ヒサ之霊神 (11日)平成11年
- 大重為光之霊神 (20日)平成18年
- 三反クニ子之霊神 (24日)昭和21年
- 平地フチエ之霊神 (25日)昭和18年
- 安武シケ清和太刀自之霊神 (26日)昭和32年
- 前田賢二之霊神 (27日)平成3年
- 本中野米子之霊神 (30日)昭和62年

「先祖のご霊神様の、現世・幽冥かくりよでのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。」

※教会行事予定表やお知らせなどのQRコードです。ご利用下さい。

行事予定表



教会ブログ『あしあと』



六月十日(木) 十時半より

月例祭に引き続き
加治木教会

布教五十九年記念祭 奉仕

※祭典後、教話 記念祭奉迎委員会

六月二十七日(日) 十時半より

上半期感謝祭 奉仕

※感謝祭お届け用紙、ご記入の上御結界へお届け下さい。

七月十一日(日) 十時半より

加治木教会 九時

信奉者研修会

場所 串木野教会

講師 宮崎北教会長

松井 真佐雄 先生

六月十八日(金)～二十日(日)

指導者育成 研修所

場所 甘木教会(舎堂)

シルバーバツシ研修所(パート)メイト課程
(小学生高学年 育成コース)

教会行事

6月

- 1(火) 報徳月例祭 10時半
- 3(木) 親教会参拝日(参拝できる 否かは未定)
- 3(木) 4(金) 教区女性教師会
- 6(日) 少年少女会(作品作り) 10時半
- 9(水) 斎掃御用 10時
- 10(木) 生神金光 大神様 月例祭 10時半
- 併せて 布教記念祭
- 13(日) 御本部教団独立記念祭(参拝できる 否かは未定)
- 16(水) 17(木) 教区教会長教師研修会
- 18(金) 20(日) 少年少女会指導者研修所(甘木 教会)
- 20(日) 全国信徒会(西南研修会)場所 北九州市小倉
- 21(月) 斎掃御用 10時
- 22(火) 月例祭(引き) 共励会 13時半
- " 青年会 20時
- 26(土) 27(日) 甘木親教会教師婦人部会(欠席)
- 26(土) 斎掃御用 10時
- 27(日) 上半期感謝祭 10時半
- 若婦人会 13時半 (未定)

少年少女会 青年会 若婦人会は、都合により日程を変更することがあります。随時連絡しますのでお気をつけ下さい。

7月

- 1(木) 報徳月例祭 10時半
- 3(土) 親教会参拝日(参拝できる 否かは未定)
- 4(日) 多良木教会 祈願祭
- 6(火) 7(木) 全国大会実行委員会(本部)
- 9(金) 斎掃御用 10時
- 10(土) 生神金光 大神様 月例祭 10時半
- 11(日) (連)信奉者研修会
- 13(火) 若婦人会 13時半
- 16(金) 甘木親教会 教師研修会
- 17(土) 甘木親教会 祈願祭
- 21(水) 斎掃御用 10時
- 22(木) 月例祭 共励会 13時半
- " 青年会 20時
- 31(土) 御用奉仕
- 8月
- 1(日) 加治木教会 祈願祭 11時

※制服が必要です。持っていない方は教会で貸し出す分が、購入するまでご都合下さい。共に早目に教会までお申し出下さい。